

事業概要	山形県庄内地域の持続可能な発展に向け、生活クラブ生活協同組合と提携する生産者の連携により、地域資源の活用を進め、食料、エネルギー、福祉の自給圏づくりを中心としてローカルSDGsの推進を図る。						
部署	生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 利用政策推進部						
所在地	〒160-0024 東京都新宿区6-24-20 KDX東新宿ビル6階						
連絡先	(電話番号)03-5285-1884 (E-mail)yoshihiro.uzawa@s-club.coop、chiduru.wakita@s-club.coop						
環境省ローカルSDGsを通じて、実現したい社会像	山形県庄内地域は農畜産物が主要な産業であり、また、それらの農畜産物を原料とした食品加工も盛んな地域です。 農畜産業や食品加工事業が気候危機の深刻化や従事者の高齢化により持続的な事業の困難性が増しています。耕畜連携による自給飼料の拡大を通じた畜産物の安定生産や耕地面積の維持を図ります。また、移住定住の促進を図り、地域における担い手の創出、新たな事業及び雇用の創出を図ります。 地域内の関係者が広く繋がり、次世代に繋がる持続可能な社会の構築を目指します。						
ローカルSDGsの実現に貢献できるソリューション	<table border="1"><tr><td>分野</td><td>脱炭素／農林水産業・地場産品／健康・福祉</td></tr><tr><td></td><td><ul style="list-style-type: none">地域内連携による自給飼料(飼料用米の作付け拡大及び品種改良によるタンパク値向上(輸入大豆カス依存の軽減)、子実トウモロコシの生産)の生産と給餌拡大。加工食品原料の生産と活用太陽光発電と売電益の活用による地域振興行政と連携した移住定住、福祉事業の推進</td></tr><tr><td>URL</td><td>https://seikatsuclub.coop/about/vision/tsunagaru-local-sdgs.html https://sanchidekurasu.jp/syonai/background/</td></tr></table>	分野	脱炭素／農林水産業・地場産品／健康・福祉		<ul style="list-style-type: none">地域内連携による自給飼料(飼料用米の作付け拡大及び品種改良によるタンパク値向上(輸入大豆カス依存の軽減)、子実トウモロコシの生産)の生産と給餌拡大。加工食品原料の生産と活用太陽光発電と売電益の活用による地域振興行政と連携した移住定住、福祉事業の推進	URL	https://seikatsuclub.coop/about/vision/tsunagaru-local-sdgs.html https://sanchidekurasu.jp/syonai/background/
分野	脱炭素／農林水産業・地場産品／健康・福祉						
	<ul style="list-style-type: none">地域内連携による自給飼料(飼料用米の作付け拡大及び品種改良によるタンパク値向上(輸入大豆カス依存の軽減)、子実トウモロコシの生産)の生産と給餌拡大。加工食品原料の生産と活用太陽光発電と売電益の活用による地域振興行政と連携した移住定住、福祉事業の推進						
URL	https://seikatsuclub.coop/about/vision/tsunagaru-local-sdgs.html https://sanchidekurasu.jp/syonai/background/						
上記ソリューションを提供できる地域について	全国(生産物の取り組み、TOCHITOへの入居については利用可能)、山形県庄内地方						

自者の特徴	<ul style="list-style-type: none">生活クラブと庄内地域は50年に及ぶ産直事業を展開し、米、豚肉、園芸品、餅や漬物などの食品の提携を展開してきました。飼料用米の取り組みは養豚事業者と地元JAの連携で1996年から試験的に開始し、2021年は1,232ha、8,500tを庄内地域で賄うまでになっています。さらに山形県農業総合研究センターとの連携で、タンパク値を高めた飼料用米の生産にもチャレンジしています。2019年から発電が開始された遊佐庄内太陽光発電や提携生産者による生活協同組合の設立を行ってきました。さらに、酒田市との連携で移住定住者と地域交流促進に向けた「TOCHiTO」プロジェクトを推進し、18戸の移住者受け入れと地域事業者のシェアオフィスなどの建設を進め2023年4月からの入居を予定しています。地域の伝統的な食品の持続的生産に向けた生産者連携や、地域資源を活用した食品開発など、さらに生産者間の連携による事業創出、雇用創出、再生エネルギーの拡大、自給力向上に取り組んでいきます。
SDGs経営に向けた自者の課題や悩み	<ul style="list-style-type: none">事業者の高齢化や従業員不足、原料資材の高騰により持続的な生産が難しくなっている。主たる生産物である水稻の価格低迷、畜産物の飼料高騰や疾病、気候危機の深刻化による生産性の不安定化。

取組名称	消費者の「食いたい！」が「住みたい！」につながった生活クラブと庄内地域のローカル SDGs プロジェクト				
応募取組主体名称	生活クラブ事業連合生活協同組合連合会	活動地域	山形県庄内地域	活動年数	約 50 年
取組主体の種類	企業 / 学校 / NPO・任意団体 / 自治体 / 地域コミュニティ / 個人 / ユース部門（概ね 30 代以下の次世代を担う若手を中心となって実施する取組はこちらにもチェックしてください） / その他				
テーマの種類	サステナブルデザイン / 子どもエンパワーメント / 環境と福祉 / 環境地域ブランディング / 環境ひとづくり / 森里川海 / 環境社会イノベーション / 地球と人への想いやり / SDGs ビジネス / 環境まちづくり / 生物多様性 / ロングライフ / その他				



取組の要旨

生活クラブと山形県庄内地域のローカル SDGs プロジェクトは、消費者と生産者という一次的な関係性にとどまらず、庄内地域の水田の維持と自給飼料の拡大を図る飼料用米の取組みや、太陽光発電所の建設、生産者による地域生協づくり、また移住定住の促進による地域の持続性確保などをともにすすめている取組みです。この背景には、水稻や青果物・果樹などの多様な農産物と、豚肉・水産物・加工食品などを、生協のしくみの上で生産と消費をしてきた、提携の歴史があります。

実績の要旨

豚肉用の飼料用米は年間 8,500t 生産し、酒田市の平田牧場などに出荷・給餌し、自給率向上のみならず肉質の改善にもつながっています。太陽光発電は年間 18,000mwh を発電し、生活クラブ組合員に加え遊佐町役場や他の生産者の工場などにも供給しています。また移住者向け集合住宅と地域交流拠点を整備運営する『TOCHiTO』プロジェクトを酒田市及び地元事業者とすすめ、住宅全 18 戸はすでに満室となり来春の入居予定者が決定、新たな地域づくりが始まっています。

取組評価の要旨	環境への貢献	太陽光発電所建設による再生可能エネルギーへの転換や、飼料用米の取組みによる遊佐町の水田の維持・保全をすすめています。
	社会・経済への貢献	酒田市の『TOCHiTO』が交流拠点となり入居者が地域づくりの担い手となるほか、休耕田を飼料用米水田とすることの経済効果を生んでいます。
	地域資源の活用	飼料用米の生産と給餌といった耕畜連携、地元の園芸作物を原料利用し生産した加工品を生協で扱うなど、資源の活用と循環がうまれています。
	普及・汎用性	酒田市や遊佐町など地域行政や地域のステークホルダーと協議会を設立し、地域内連携による課題解決のモデルケースとなるよう取り組んでいます。
	革新・ユニーク性	首都圏の生協と地方の生産者の食を通したつながりが、移住定住促進（福祉）や太陽光発電（エネルギー）分野に及び FEC 自給圏を実現しました。
	継続性	庄内地域の事業を持続可能なものとするため、庄内地域協議会を生活クラブと生産者で設立し、課題を共有、ともに解決してきています。
展望の要旨	生産者・消費者・移住者・生活クラブ間の連携により、資金やアイデアを出しあい、生産基盤の維持と新規事業や雇用の創出、担い手の確保をすすめていきます。	

■ 応募者情報

応募主体名称（法人名称・団体名称・個人名称など）	
名称	フリガナ セイカツクラブ`ジキ`ョウレンゴ`ウセイカツキョウド`ウミアレンゴ`ウカイ
	生活クラブ事業連合生活協同組合連合会
代表者	
氏名	フリガナ ムラカミシヨウイチ
	村上彰一
	肩書 代表理事会長
住所（主たる事務所等）	
東京都新宿区新宿 6 丁目 24-20 KDX 東新宿ビル 5 階	

■ 連絡先

担当者	
氏名	フリガナ ソウマサチ
	相馬 祥
	肩書 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 情報企画部 広報課課長
メールアドレス	sachi.soma@s-club.coop
電話番号	03-5285-1833

■ 取組の 카테고리（以下より選択）※複数可

教育	/	買物	/	食事	/	住居	/	仕事	/
交通	/	旅行	/	医療福祉	/	その他			

■ URL

WEB サイト
https://seikatsuclub.coop/
SNS (Facebook、Twitter、Instagram など)
Facebook https://www.facebook.com/seikatsuclub/
Twitter https://twitter.com/seikatsu_club
Instagram https://www.instagram.com/seikatsuclub/
YouTube https://www.youtube.com/user/SeikatsuClub

■ 過去のグッドライフアワード受賞歴（受賞した回と賞名をすべて記入）

第6回 環境大臣賞 NPO・任意団体部門 「地球生態系のためのごみ減量システム「グリーンシステム」」

■ メッセージ動画（任意）

YouTube URL

■生活クラブ生協とは

- ・1965年、東京都世田谷区で牛乳の共同購入から始まり、1968年に生活協同組合として創立しました。
- ・神奈川県、埼玉県、千葉県、長野県と生活クラブ生協は各県にも広がり、現在は北海道から兵庫県まで21都道府県で組織されています。
- ・2022年3月末でグループ会員単協は33生協、組合員人数は約42万人となっています。

■生活クラブの基本理念

生活することは、消費することです。

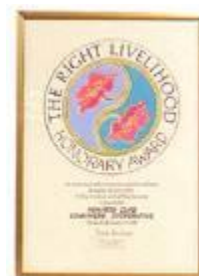
”なにを”、”どのように”消費するか、という選択は、そのまま、「どんな未来にしたいか」「次の世代へ何を手渡したいか」へとつながっていきます。

私たちは、自然と共生し、**食べ物 (Food)**、**エネルギー (Energy)**、**福祉 (Care)** をできる限り自給・循環させる「サステナブル (持続可能) な生き方」を選びます。

いまを生きるいのちと次世代のいのちを、おなじように大切に考えて、すべての活動を行ないます。

■受賞歴

- ・1989年 ライトライブリフッド・アワード 名誉賞受賞
- ・1995年 国連 われら人間：50のコミュニティー賞受賞
- ・2006年 グリンピース・ジャパン トゥルーフード特別賞受賞
- ・2009年 Food Action Nippon アワード2009 優秀賞受賞
- ・2015年 第6回グッドライフアワード 環境大臣賞受賞
リユース・リサイクルを行なうグリーンシステム
(地球生態系のためのごみ減量) にて



左：ライトライブリフッド賞、右：国連われら人間50のコミュニティー賞の盾



規格を統一したびんをリユースし、ごみを削減するしくみ「グリーンシステム」

■山形県庄内地域での取り組み

- ・1970年代に米や豚肉といった主要な食料を山形県庄内地域の生産者と取り組みをはじめ、1972年より無添加ウインナーの開発に着手、1974年より生協組合員が産地に赴く庄内交流会を実施、相互の訪問により直接的な交流を重ねてきました。
- ・庄内地域の生産者間の連携をさらに広げ、遊佐町や酒田市との包括的連携協定の締結を通じ、これまでの事業に加え移住定住や新たな事業創出を展望した取り組みをすすめています。



遊佐町に建設した「庄内・遊佐太陽光発電所」



酒田市に建設・整備中の『TOCHiTO』プロジェクト完成予想図

■取組みの背景 ～約50年間にわたる生活クラブ生協と庄内地域の関係性～

このたび紹介する取組は、約50年間にわたり構築してきた生活クラブ生協と庄内地域における食の提携関係を礎に築きました。生協と生産者が食をきっかけに交流を深め、食の安心安全や自給の問題を協力して解決するうちに互いの地域社会の問題を解決するパートナーとなりました。

<1970年代>

提携関係の開始

■1972年：生活クラブ生協と(株)平牧工房で化学調味料・保存料など**無添加のウイナー**の開発に着手。

→この後、豚肉(精肉)の取り扱いへと発展しました。

■1972年：JA庄内みどりとの**米の提携**の開始。減反制度が開始された時期であり、直接提携の可能性をさぐり始めました。



←提携開始当時のウイナー製造の様子



→JA庄内みどり(当時：遊佐町農協)での米出荷の様子

<1980年代～1990年代>

① 関係人口の創出

■**庄内交流会**：庄内地域へ生活クラブ組合員が赴き、食の生産現場をつぶさに学習し生産者との交流を行なう**大規模交流会**。1974年から現在まで毎年実施し、現地に赴いたのは延べ約2,300人にのぼります。

■**消費地交流会**：生産者が生活クラブ組織のある消費地を訪問し、学習会と交流を実施しています。

→つくる人・食べる人の双方が産地と消費地を行き来し、互いの理解を深めるだけでなく、**愛着の形成へとつながりました**。

② 食の問題解決に向けた協力体制の構築

■米の**適地適作品種の選定、特別栽培米へのシフト**。その過程においても食味評価等で生活クラブの組合員が参加し、ともに協力して実施しています。

■JA庄内みどりによる飼料用米作付けと(株)平牧牧場の豚への給餌による**循環型農業の構築**、水田を活用した**自給力アップへの挑戦**。

■生活クラブ生協では実験途中の豚肉を食べ支えるなど、生産者と実需者の協力によって**自給力のアップ**を実現しています。



←山形県遊佐町の飼料用米の圃場



←2019年度の庄内交流

<2000年代～>

① 庄内地域・生活クラブそれぞれに新たな課題が顕在化

■**庄内地域**：提携生産者のある酒田市や遊佐町で、人口減少問題など、地域の持続可能性が課題となりました。

■**生活クラブ**：庄内地域と同様に、第一世代の組合員の高齢化や、住み替えなどセカンドステージへのニーズが顕在化。このまま都市生活を継続できるのか、不安に思う声も増えました。

『**食、エネルギー、福祉を自給する共生経済のしくみを生産者と協力して実現できないだろうか？**』



→庄内の福祉コミュニティ構想報告集会

2010年代に入り、都市・生産地ともに「持続可能な地域社会」が危ぶまれている状況が明らかに。
食の提携で培った関係性を礎に、双方の地域社会の活性化へ踏み出しました！

～都市圏と産地圏の双方が持続可能な社会をつくるため、食・エネルギー・地域(移住)を、消費者(生協)と生産者、自治体と共生経済を創造～

取組みその1： 食の提携の継続

■豚肉・加工肉、農産加工品、青果物、酒類など、**現在 15 の生産者と提携**。
庄内の地域資源の「食」を 22 都道府県の生活クラブ組合員が供給を受けています。

■循環型農業の構築

飼料用米の生産(飼料として提供)



米育ち豚(養豚) → 豚肉を生活クラブへ供給

↓(豚の排泄物でつくるたい肥)

米や農産物生産に活用

■酒田市、遊佐町に**生協庄内親生会の設立**(生活クラブ連合会の会員生協)庄内地域の生産者で組織。生産者も消費者として生協を活用できる全国発の試みがはじまりました。



食の自給からエネルギー自給へ発展

取組みその2： 庄内・遊佐太陽光発電の建設

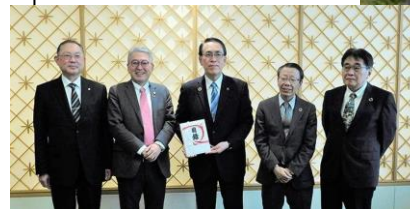
■遊休地を有効活用し、自然エネルギー(地域資源)の発電所「庄内・遊佐太陽光発電所」を建設、組合員へ電力を供給しています。

- ・建設資金は生活クラブ組合員らの出資(市民ファンド)、生活クラブ提携生産者(庄内の生産者だけでなく)などからの融資によるものです。
- ・ここで発電した電気は生活クラブ生協のでんきの共同購入「生活クラブでんき」を通じて生活クラブ組合員へ供給しています。

■売電益を持続可能な庄内地方の地域づくりに活用しています。

- ・生活クラブ連合会、生協庄内親生会、酒田市、遊佐町、(株)庄内自然エネルギー発電(太陽光発電所の事業主体)の5者が協定を結び、**庄内自然エネルギー基金を創設**しました。
- ・**年間 1,000 万円造成** (2020 年～3 年間)。**初回助成は移住交流拠点『TOCHiTO』の建設に充てる**ことを構想。

→庄内・遊佐太陽光発電所



←5者協定に基づき、太陽光発電の売電益を酒田市に設置した基金へ(贈呈式より)。

売電益を地域づくりに還元

取組みその3： 参加型福祉コミュニティ形成

- ・庄内に愛着を持った生活クラブ組合員が庄内(酒田市)へ移住し、地域社会へ参画する構想です。
- ・これまで移住希望者が酒田市での暮らしを検討できるように、学習会、現地視察会、ちょっと暮らし体験などのイベントを生活クラブが主催。
- ・そして移住者と地域の人が変わり、活躍するための移住交流拠点『**TOCHiTO**』を建設中です。
- TOCHiTO とは**：移住者向け集合住宅「**TOCO**」、コワーキングスペース、キッチン付きのパブリックスペース(集会室)を併設した地域交流拠点「**COto**」、地域に開けた中庭「**CHiTO**」からなる移住交流の拠点づくりプロジェクトです。
- ・酒田市で「**酒田市生涯活躍のまち構想**」を策定。庄内での暮らしを検討する会及び **TOCHiTO** の事業は酒田市と生活クラブで連携して実施しています。
- ・**TOCHiTO** の地域交流拠点は、**庄内自然エネルギー基金**の助成を受けて建設されています。



←TOCHiTO 完成予定図
↓建設予定地にて、入居検討者らの視察



移住やコミュニティづくりに都市から生活者が参画し、地域の活性化

①庄内交流会の開催・参加人数

1974年より毎年1回夏に、全国の生活クラブ組合員が庄内の生産者を訪れ交流する「庄内交流会」を実施。

49年間にわたる計47回の大規模な組合員の産地訪問を実現しています（コロナ禍により、2020年は中止、2021年はオンライン交流）。

これまで「庄内交流会」を通じて庄内地域を訪れた生活クラブ生協組合員の人数は、**延べ3200名**を超えています。

また年に1回の庄内交流会だけでなく、米や豚肉などそれぞれの生産者交流会を、約50年間各地で開催しています。

②庄内の生産者から生活クラブに供給している供給高・関連する作物の生産高

主食用米 約13億円（玄米仕入高）／青果物 約1億円（仕入高）／豚肉・豚加工肉 約74億円（供給高※）

その他加工食品等 約3億6千万円（供給高※）／飼料用米生産量 約8,500t（年間）

※組合員約41万7千人のうち、同一注文システムを採用する約27万6千人の2021年度実績合計

③庄内・遊佐太陽光発電年間発電量

発電開始年月：2019年2月1日

年間発電量：**18,000MWh（約5,700世帯の平均的消費量に相当）**

④庄内自然エネルギー基金の造成・助成

造成額：2020年からの3年間で合計約3000万円を造成

助成実績：2022年に合計で約1400万円を遊佐町とTOCHiTOプロジェクトに助成

→2023年より助成先の一般公募を開始し、持続可能な地域づくりに取り組む団体に助成予定です。

⑤移住交流拠点『TOCHiTO』プロジェクトの整備・運営、移住の促進

居住者数：居住棟全18戸中17戸に生活クラブ組合員の居住が決定し、居住（移住）者数は26名となる予定（1戸は酒田市が借り上げ）

交流棟の活用：コワーキングスペースの全10室は満室となっています。

⑥「これからの暮らしを考えるセミナー」「庄内で暮らすを検討する会」「ちょっと暮らし体験会」実施

移住検討中の組合員を対象にしたセミナーや体験会を数多く開催しています。酒田市の移住担当者や庄内の生産者、地元の事業者などとの交流の場を設けることで、移住後の生活を想像したり、不安を解消したりできるサポートを行ない、結果、居住棟の予約満室につながっています。

①環境への貢献

- このプロジェクトの根幹をなす食において、環境保全型農業、循環型農業を実践しています。
 - 特別栽培米は998ヘクタール作付け。
 - 地域で生産した飼料用米の豚への給餌による畜産飼料の国内自給力アップへ貢献。
 - 飼料用米作付けによる水田の維持保全へ貢献。
 - たい肥の、米・野菜づくりへの活用。
- 園芸作物：平田牧場のレストランで使用された揚げ油の廃食油からバイオディーゼル作成。農業機械の燃料として使用しています。
- 自然エネルギーを活用した発電を行なっています。

環境保全型畜産経営の確立



④普及・汎用性

酒田市や遊佐町等地域行政や地域のステークホルダーと協議会を設立し、地域内連携による課題解決のモデルケースとなるよう取り組んでいます。

②社会・経済への貢献

- 都市と地方の資源の交換により、双方の地域社会と経済へ貢献しています。
 - 食：庄内地域の農畜産物の都市への販売を通じ、地域産業と雇用を維持。
- 
- エネルギー：庄内地域に建設した太陽光発電による都市部への電気の販売。都市部が一方向的に地方の自然資源を利用するのではなく、その売電益を地域づくりに活用する基金をつくりました。
 - 移住：『TOCHiTO』での都市→酒田への移住によるまちづくりへの参画と雇用や事業の捻出。

⑤革新・ユニーク性

食の共同購入をきっかけに、生産と消費にともにかかわってつくってきたことで、産地や生産者のファン(関係人口)を形成し、FEC自給圏を実現しました。



組合員が生鮮現場を訪れ生産を学ぶ「庄内交流会」。約50年継続

③地域資源の活用

- 地域の主作物である水田の遊休地を活用して、食品加工原料(大豆、そば、ナタネ)を作出。生活クラブで扱う加工品の原料として扱っています。
- 遊休地を活用しメガソーラーを建設。その売電益をこのプロジェクトの資源としています。



⑥継続性

庄内地域の事業を持続可能なものとするため、庄内地域協議会を生活クラブと生産者で設立し、課題を共有、ともに解決してきています。



庄内協議会会員団体
計17団体

現在の取り組みを継続することはもちろん、庄内協議会で共有している課題解決にむけ、さらなる連携を深めていきます。

- 国産飼料の生産拡大によるさらなる国内自給力向上をめざします
- 飼料適性を追及しつつ飼料用米以外の作物の作付にも挑戦します（子実用トウモロコシ、高たんぱく値の飼料用米品種の選定など）
- 地域農産物の農産加工品としての利活用、販路の拡大
- 高齢化による担い手不足の解消（移住者の生産現場への参画など）
- 新規品開発にむけた都市部居住組合員との連携・交流強化
- 「庄内での暮らしを検討する会」などのワークショップ開催を継続し関係人口を創出

庄内協議会での協議に加え、生産者・組合員・地元行政・地元事業者とともにワークショップを開催し、幅広く意見を出しあい、庄内地域の未来を展望するさまざまな議論がうまれています。「みんなで参加しみんなで解決する」地域づくりをめざしています。ワークショップでのみんなの声の一部を紹介します。



IT、IoT、AI などデジタル化を生産現場に導入したい

庄内のお米をつかったグルテンフリーのカフェをやりたい

子どもの遊び場を確保したい！

若者が楽しめるスポットを増やして自然・文化・経済が共存する地域に

シニア層もいきいき働ける、雇用の創出やプチ就労支援がほしい

農業を「もうかる農業」としてイメージアップさせたい

きれいな水を未来に残す！

気候変動にあわせた新品種開発が必要なのは？

「日本一女性が働きやすいまち酒田」の実現

食の提携からはじまった関係性を礎に、他の産地でも、その地域の特性に合ったローカルSDGsをさらに広げていきます